
プロポーズ

北田くま

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
プロポーズ

【Nコード】
N1603D

【作者名】
北田くま

【あらすじ】
愛する彼女へプロポーズしようと決めた主人公。その先には意外な展開が待っていた。

僕の1日は彼女で始まり、彼女で終わる。

僕と知り合って一ヶ月もたたないうちに彼女は引越し、今は遠く離れてしまった。なかなか会えない関係だから、僕はいつだって彼女が寂しくならないようにしているんだ。

朝起きたらまず、彼女の携帯に『朝のメール』を送る。内容は様々だ。昨日見たテレビのことや、最近知った面白い話、今日も1日頑張ろうねというメッセージも必ず入れる。

そしてお昼になったなら『昼のメール』を送る。内容はその日の午前中にあつたこと。昼食には何を食べたかなんてことも付け足しておく。そして、本当は彼女のお弁当が食べたいんだということも伝えて置かなければならない。

仕事が終わったなら、『夜のメール』を送る。内容はその日1日あつたことや、気付いたこと。

そして電話をかける。彼女は仕事が忙しく、ここ何カ月は声も聞けない。本当は会って直接言いたいんだけど、僕は留守番メッセージに

「愛している」と今日も囁く。

僕は彼女を愛している。ゆくゆくは結婚をして、子どもも作りたい。そんな彼女への想いを抱えたまま、僕は眠りにつくのだ。

そしてついに、僕は決意したんだ。彼女に会ってプロポーズしよう。二人で幸せな家庭を築こうと、伝えよう。

その日は早めに仕事を終えると、僕は前々から目をつけていた婚約指輪を買った。出費は痛かったけれど彼女のためなら平気だった。花束も買った。電車に乗り、彼女が一人で暮らす家に向かう。

着いたときにはまだ彼女は帰っていないようだったので、家の前で待つことにした。そしてしばらくすると向こうから彼女が帰ってきた。が、彼女は一人ではなかった。隣に背の高い筋肉質の男を連

れて楽しそうに話しているではないか。これは、どういうことだ？
僕は頭のなかが真っ白になった。

彼女は浮気をしていたのか？ 激しい怒りに駆られたが、それでも僕は彼女を愛していた。彼女を取り戻したくて、二人の前に勢いよく飛び出した。

当然、彼女と男は驚いている。そして僕が口を開く前に、男が鬼のような形相で拳を振り上げた。

（殺される！）

そう思った瞬間、殴られた衝撃からか脳みそが大きく揺れた気がして僕の体は宙に浮いた。

そして彼女が男の腕に抱きつきながら、鬼のように恐ろしい形相で叫んだ。

「いい加減にしてよ！ ストーカー！！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1603d/>

プロポーズ

2010年10月20日20時02分発行